

第3回 日本在宅医療連合学会 大会が開催される

本誌編集室

第3回日本在宅医療連合学会大会が、2021年11月27日(土)～28日(日)、オンライン上で開催された。在宅医療に携わる専門職ら約2300名(ライブ配信当日までの申込者)が参加し、全国における在宅医療実践・研究の最前線について活発に語り合う場となった。

メインテーマは「つながる——在宅医療の実践とエビデンスの構築」。在宅医療ならではのつながる力を軸に、幅広い分野での実践的かつ学際的議論が広がった。

在宅医療のもう1つの形

シンポジウム21「新型コロナウイルス感染症とHospital at home——在宅医療のもう1つの形」では、全国でも先駆的に新型コロナ感染症患者への在宅医療提供を開始した京都府から守山佳樹氏(よしき往診クリニック)と山畑佳篤氏(京都府立医科大学)が、法人や組織を超えて連携した様子を発表。第5波において急速に入院待機者が増えた東京都からは菊池亮氏(ファーストドクター株式会社)、佐々木淳氏(医療法人社団悠翔会)が、それぞれの経験を語った。

従来の慢性期療養者を中心とした在宅医療提供の形だけでなく、感染症流行の急性期における体制づくりから経験したそれぞれの立場で、日本の実情に沿った新しい在宅医療のあり方を議論した。

「心理学」との協働を探る

シンポジウム10「心理学と在宅医学の協働を探る」では、在宅医療現場における心理士らの実践と可能性が語られた。

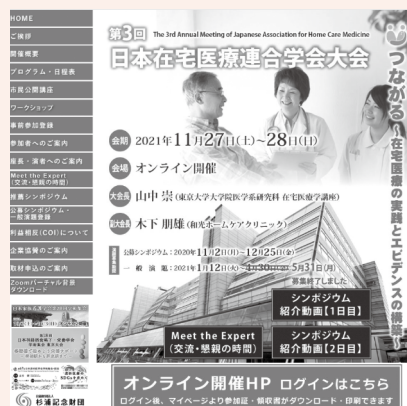
在宅医療現場と密接に関わる領域から浅見大紀氏(老年臨床心理学)、山口加代子氏(リハビリテーション心理学)、栗原幸江氏(緩和ケア)らが実践事例を報告。公認心理士がクリニックや訪問看護ステーションに所属することで、精神疾患のみならず高齢者ケア、グリーフケアや家族ケア、難

病・障害へのケア、そしてスタッフケアとしても根強いニーズがある「心理的ケア」の質を向上させる可能性が示された。

本大会はライブ配信だけでなく、オンデマンド配信〔11月19日(金)～2022年1月11日(火)〕や、ライブ配信と同映像の後日配信〔12月13日(月)～開始予定〕もある。

次回第4回大会〔座長:谷水正人氏(独立行政法人国立病院機構四国がんセンター院長)〕は、2022年7月23日(土)～24日(日)、神戸国際展示場および神戸国際会議場(兵庫県神戸市)において開催予定。

■第3回日本在宅医療連合学会大会ホームページ
<https://procomu.jp/zaitakurengo2021/>



学会終了後も見られる配信が多数あり。